

2026 年度事業計画

1. 調査研究の推進

(1) D-Call Net の研究開発

新車搭載の車載機型（第 1 種）D-Call Net については、交通弱者（歩行者、自転車乗員）を対象とした次世代 D-Call Net に関する調査研究、ドクターカーへの展開、救命救急に関わる消防・病院関係者への広報啓発などを継続する。

使用過程車にも搭載可能な画像活用型（第 2 種）D-Call Net については、2023 年度から開始したドクターヘリ・ドクターカー基地病院・消防本部における試験運用の成果を踏まえて、2026 年度以降に全国における本運用の開始を目指す。また、試験運用と並行して行っている効果評価共同研究をデータ数確保のため 2028 年 3 月まで 2 年間延長する。

D-Call Net の普及と理解増進のため、HEM-Net のホームページに作成した D-Call Net 目次情報の改善を継続する。また、ドクターヘリとドクターカーにおける D-Call Net の利用状況が医療レジストリーに項目追加されるため、同レジストリーによる D-Call Net の効果検証について検討する。

(2) HEM-Net シンポジウムの開催

ドクターヘリの質的向上をはじめ HEM-Net の今後の活動展開に資する分野からテーマを選び、HEM-Net シンポジウムを開催する。

(3) ドクターヘリ夜間運航に関する調査・研究及び関連する活動

我が国においてもドクターヘリの夜間運航を実現するため、昨年開催した国際講演会におけるドイツ夜間運航に係る情報をドクターヘリ推進議員連盟や関係省庁等に伝えるとともに更に調査研究し、併せて、将来不足することが確実なパイロットと整備士を計画的に養成するよう、今後も引き続き同議員連盟や関係省庁に訴えていきたい。関係省庁に対しては、昨年再開された「ヘリコプター操縦士の養成・確保に関する関係省庁連絡会議」を通して訴えていくこととしたい。

(4) ドクターヘリの連携・補完手段としてのドクターカー、ドローン及び空飛ぶクルマの調査研究

「ドクターヘリの連携・補完手段」として位置付けることができるドクターカー、ドローン、空飛ぶクルマについて、これらに関する調査研究を関係団体と連携して行っていく。それぞれの計画は以下のとおりである。

① ドローンとドクターヘリのコラボレーション

災害時や予期しない緊急時に、ドローンがドクターヘリ運航や災害時の広域運用などに際し、様々な側面から支える可能性は大きい。

2026 年度も、日本航空医療学会の新型航空機委員会と共同して、実践的な実証実験を計

画し、災害・緊急時のドクターヘリの安全な着陸場所の確保、医療資材・薬剤などの搬送をサポートする研究と実証実験を進めることとする。

② 「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム

「空飛ぶクルマ」に関しては、2025年の大阪・関西万博において実機によるデモフライトが実現したところであるが、航空法上の型式証明取得や旅客輸送などの実用飛行は実現しなかった。しかしながら、現在は新技術の黎明期であることから、今後の機体開発状況をモニターすることとする。

航空法におけるガイドライン（機体の安全基準、操縦者の資格要件、整備に関する要件、離着陸場の要件、飛行様式の基準）についても、実機の開発状況、性能の向上に応じて今後の改定が予想されるので、こちらも引き続き注視することとする。

③ 「全国ドクターカー協議会」との連携によるドクターカーの調査研究

HEM-NetはD-Call Netのドクターカーへの導入を推進しているが、そのためにはHEM-Netと全国ドクターカー協議会の連携が不可欠である。そこで、2024年8月、当該協議会登録病院宛にHEM-Net理事長名の「D-Call Net導入のご案内」を通知し、当該協議会もこれに呼応して同年9月からドクターカー運用病院に対してD-Call Net導入を呼びかけており、併せて両者の連携を深めるため当該協議会のホームページにHEM-Netをリンク先として設定しているところである。

今後も引き続きD-Call Netのドクターカーへの導入が進捗するよう全国ドクターカー協議会との連携を深めるとともに、ドクターヘリとドクターカーの連携に係る調査研究に協力していきたい。

(5) 病院前救護・医療に係る調査研究支援事業

ドクターヘリの効果的・効率的な運用に加え、ドクターヘリが利用できない場合等の病院前救護・医療に関する調査研究を進めるための支援事業を継続する。

具体的には、ドクターヘリ基地病院等が行う病院前救護・医療に係る調査研究のための費用を上限100万円以内でHEM-Netが助成することとし、2026年度は4団体を目途に募集を行う。

2 ドクターヘリの安全運用に関する取り組み

(1) ドクターヘリの安全運用に関する合同委員会

2023年以降、①ドクターヘリ運航事業者3社に対する不利益処分等、②2025年4月6日の福岡和白病院医療搬送用ヘリコプターの航空事故、③同年夏以降における学校法人ヒラタ学園の整備士不足と運休、などのドクターヘリに関する不安全事故が続いている。②及び③は2025年の本合同委員会の報告書取りまとめ以降に起こったものであり、それらの状況を踏まえた具体策に関する審議を行う予定である。

(2) クラウドファンディング「Safe Crew Project」による財源を活用した取り組み

2025年度に実施した洋上不時着対応訓練に関する支援に引き続き、ドクターヘリの事業主体である都道府県の動向を踏まえ、ドクターヘリ医療クルーの安全確保のための事業を実施する。

(3) 航空整備士・操縦士の人材確保・活用について

国土交通省の「航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会」を踏まえて設置された関係省庁連絡会議等に参加し、将来における航空整備士・操縦士の人材確保策等について検討を行う。

(4) 国などの関係会議への参加

上記の各活動のほか、ドクターヘリの安全運用に関わる国などの関係会議に引き続き積極的に参加し、HEM-Netとして必要な意見を申し述べていくこととしたい。

なお、2025年11月25日のドクターヘリ推進議員連盟で議論された整備士に関する現行の同乗の基準（全日本航空事業連合会（全航連）ドクターヘリ分科会決定）の今後のあり方については、日本航空医療学会、全航連ドクターヘリ分科会、厚生労働省等と連携して検討を進めていくこととする。

3. 情報の発信

(1) HEM-Net プラザの発行

「HEM-Net プラザ」は、2026年度においても引き続き、時局性の高いテーマやドクターヘリ活動への理解促進につながるテーマに配慮しながら、順次発行していくこととする。

当面、前年度から準備を進めている「海外調査報告」、「洋上不時着対応訓練参加者座談会」、「夜間運航」を題材とする各号を含め、整ったものから順次発行していくことを予定している。

(2) 広報宣伝活動等の展開

関係団体、医療関係者等と連携・協力して、ドクターヘリの質的向上、D-Call Netの普及・啓発などに関する研究会、セミナー、講演会などを主催・共催し、あるいはそれら研究会等に積極的に参加するとともに、新聞・機関誌等への寄稿やメディアの取材にも対応していくこととする。

4. ネットワークの拡大・連携強化

(1) 賛助会員・寄付者の拡大

引き続き、賛助会員・寄付者の拡大に努める。また、SNS等も含め引き続き効果的な手法について検討を進める。

(2) 関係団体等との連携強化

ドクターヘリ推進議員連盟の総会に出席し、HEM-Net としての活動内容や課題を報告するとともに、「ドクターヘリの安全運用」をはじめとする最重要課題等についてはその解決のための支援・協力を各方面からいただけるよう取り組んでいくこととする。

日本航空医療学会、ドクターヘリ連絡調整協議会（猪口貞樹会長）、ドクターヘリ連絡調整委員会（北村伸哉委員長）にそれぞれ担当理事等が出席し、HEM-Net の活動を報告するとともに必要な調整を行うこととする。

ドクターカーについては、HEM-Net も会員である全国ドクターカー協議会に担当理事等が出席し、今後のドクターカーの活用方策等についての議論等の情報を得るとともに、D-Call Net 通報の利用を希望する病院を募集するなど、HEM-Net としても多面的に協力することとする。

ドローンについては、HDC（日本ドローンコンソーシアム）のフォーラム等に出席し、情報等を得るとともに、その活用をさらに推進するために情報発信することとする。

空飛ぶクルマについては、NEXTAA（空飛ぶクルマによる医療搬送システム検討コンソーシアム）の総会、委員会、WG等に出席し、情報を得るとともに情報発信することとする。